

2004年6月21日

各位

会社名 第一工業製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 津田 章裕
(コード番号 4461 東証、大証各1部)
問合せ先 取締役総務経理本部長 曾根 潔
(TEL (075)255-0900)

中期経営計画について

当社は、2004年4月1日に創業95周年を迎えました。
来る100周年を展望した、向う5年間の中期経営計画を現在推進しています。
当社の中期経営計画「ADD21計画」の要旨と企業活動の概要をお知らせ致します。

中期経営計画の要旨

「ADD21計画(アッド21計画)」

(2004年4月～2009年3月)

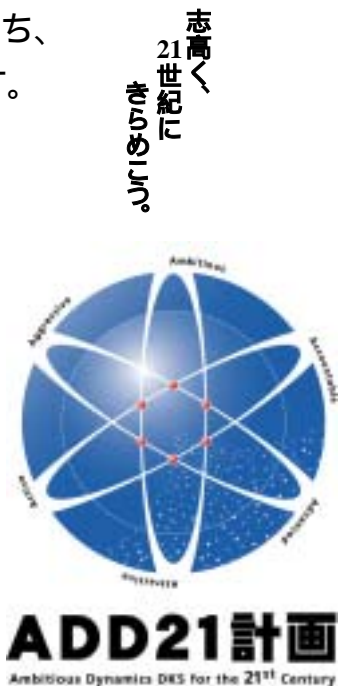
・創業百周年の夢を実現する中期経営計画「ADD21計画」

Ambitious Dynamics DKS for the 21st Century

高い志を持ち、活力がみなぎり、21世紀にきらめく 第一工業製薬
の頭文字を使って、『ADD21計画』と呼んでいます。
ADDは、企業価値を大きく高める「付加」の意味を持ち、
連結売上高500億円と経常利益25億円を目指します。

[シンボルマークについて]

カンパニーカラーであるロイヤルブルーの色を使い、真中に
第一工業製薬(DKS)を象徴する六角形を組み込みました。
これは四つの守護神の一つ、玄武、あるいは化学構造式のベンゼン環、
亀の甲羅をイメージしています。
外に向かって出来た6つの線が6つの輪となり、6つのA、ヘキサゴン
を形成しています。
右下にちりばめられた点は、ひとり一人の社員の志を星に見立て、左上
のDKSドリームに向かって力強く進む様を示しています。
DKSが21世紀にきらめき大きな存在感を示し、宇宙空間に未来を切り
開く姿を表現しています。



1 . 経営理念

『研究エンジン思想』で顧客満足を実現し、技術立社で前進する
存在感のあるリーディングカンパニーであり続けること

[研究エンジン思想]

顧客の望む高品質の商品を、より安く、より早く提供するための開発活動、
研究活動、生産活動の全般にわたって、研究部門がエンジン役を果たしていく
という考え方があります。

2 . 目指すべき企業像と行動指針を示す「ヘキサゴン - A」

【目指すべき企業像】

- (1) 見える責任経営 **A**CCOUNTABLE MANAGEMENT
- (2) 磨き上げる技術 **A**DVANCED TECHNOLOGY
- (3) 魅力的な調和 **A**TTRACTIVE HARMONY

【行動指針】

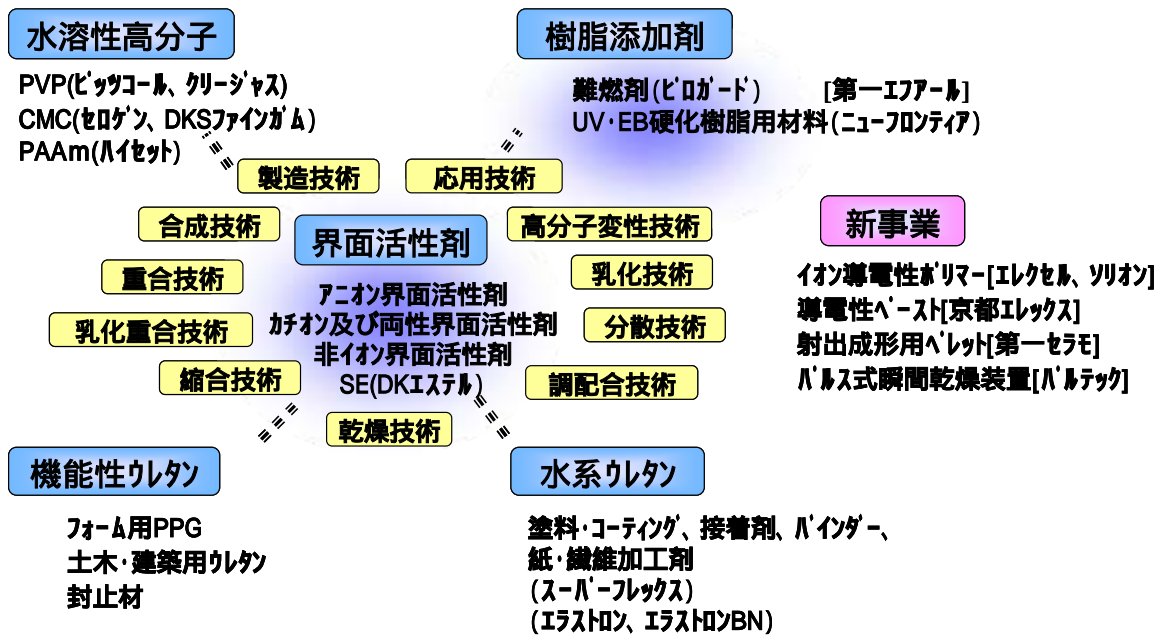
- (4) 高い志を持ち **A**MBITIOUS
- (5) はつらつと行動して **A**CTIVE
- (6) 情熱を傾けよう **A**GGRESSIVE

3 . 経営方針

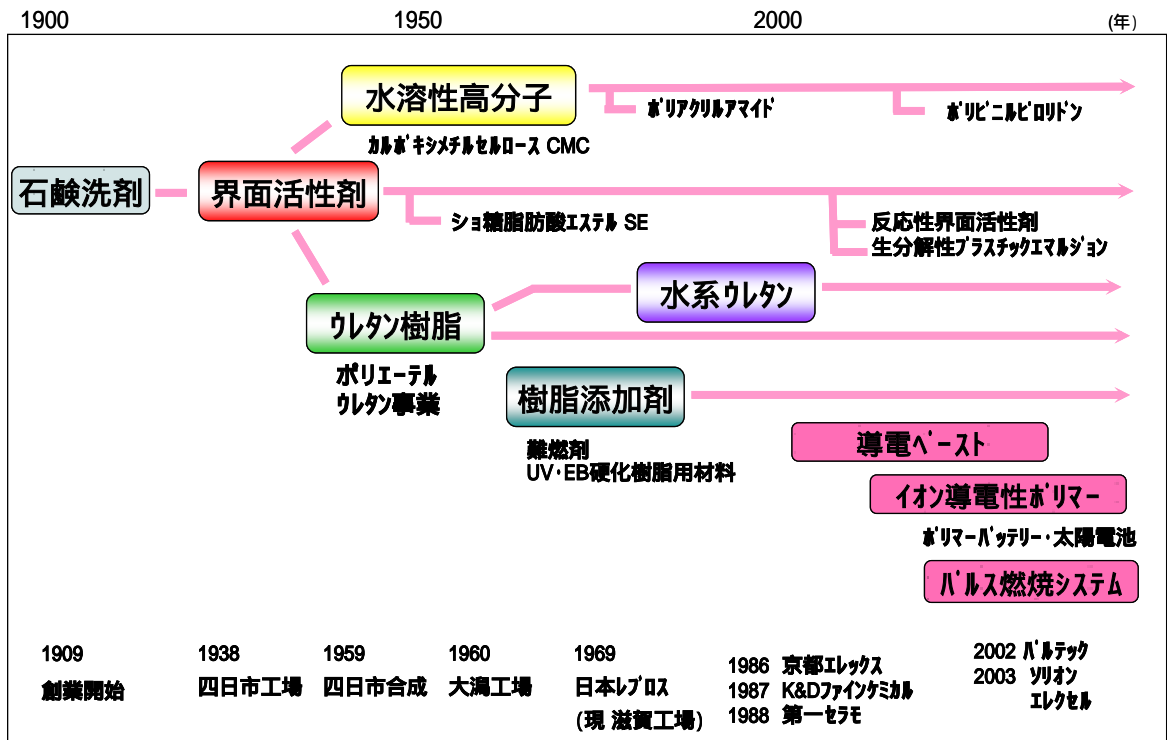
- (1) 『顧客満足』を実現するための『研究エンジン思想』の実践
- (2) 企業価値の持続的な付加拡大
- (3) 『三現主義』(現場、現物、現実)の実践による事業強化
- (4) コーポレートガバナンスの充実
- (5) コンプライアンス経営の推進
- (6) 創業百周年に向けた企業像の構築

・ 企業活動の概要

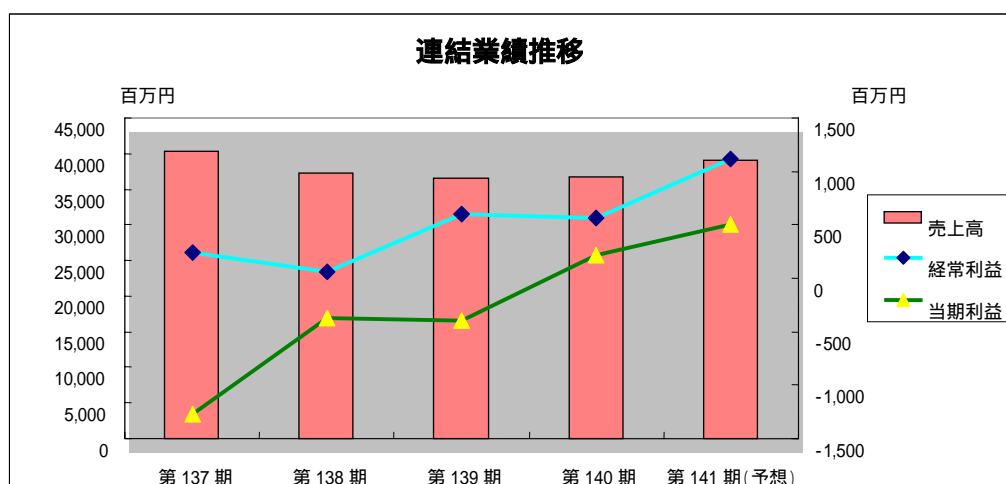
1 . 技術の柱



2 . 五つのコア事業の歩み

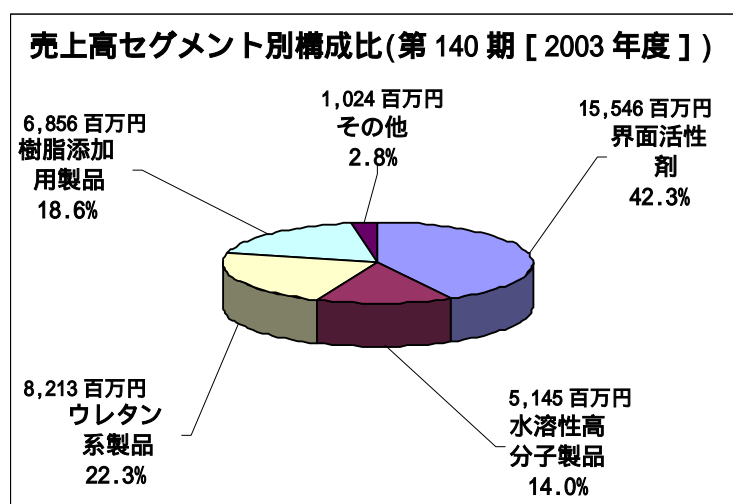


3. 業績の推移



単位：百万円

	第137期	第138期	第139期	第140期	第141期(予想)
売上高	40,359	37,281	36,490	36,785	39,100
経常利益	236	58	595	567	1,120
当期利益	1,277	367	399	215	510



4. 前中期経営計画「DKS新生計画」の成果

- (1) 『事業強化』を目指したシヨ糖脂肪酸エステル、機能性ウレタンおよび『開発育成』を狙った紫外線硬化樹脂用アクリレートモノマーは、目標を達成しました。
- (2) 経営効率の改善の面では、退職給付会計変更時差異償却、有価証券の時価損失、有利子負債の削減、自己株式の取得、取引先持株会の創設、等の処理を行いました。また2006年完成予定の新研究所棟は、建設段階に入りました。

- (3) 未曾有のデフレ経済下において、厳しいリストラ対策を講じて業績低迷に歯止めをかけ、且つ負の遺産を解消し、業績の改善を図りました。

・戦略の概要

1. 数値目標

創業百周年を迎える 2008 年度において

- ・売上高 500 億円以上
- ・経常利益 25 億円以上

を達成し「企業価値」の持続的な付加拡大を成し遂げます。

2. 主要な財務目標

創業百周年を迎える 2008 年度において

売上高経常利益率	7%以上
株主資本当期利益率	8%以上
自己資本比率	45%以上
債務償還年数	4年以内
新製品化率	30%以上

の達成を目指します。

3. 執行体制の強化

- (1) コーポレートガバナンス強化のための経営執行体制
- (2) 執行役員会等による意思決定組織の改編
- (3) 報酬システムの改革他

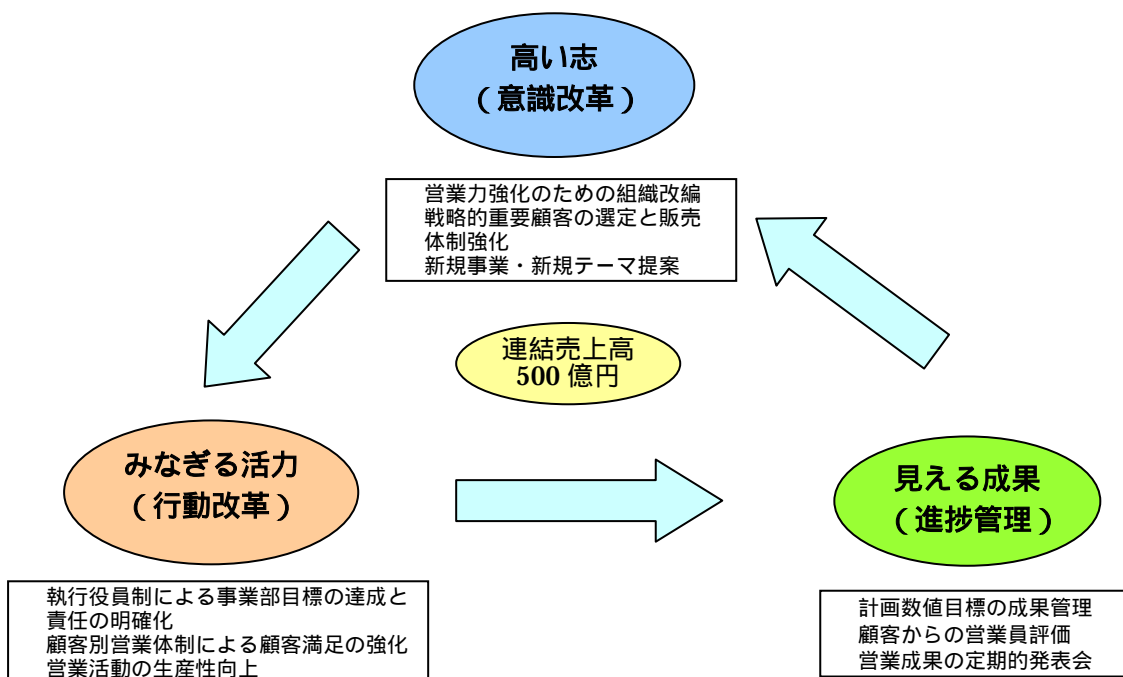
4. 事業展開の基本的な考え方

- (1) 創業百周年を迎える 2009 年 4 月までに、売上高 500 億円以上、経常利益 25 億円以上の達成実現のために、コア事業強化のための組織再編を実施します。また子会社事業と新規創製事業の進捗管理を強化します。
- (2) ソリューション型提案営業による事業展開を志向し、自己完結型のセグメント型事業の連結経営を進め、各セグメント型事業は、『強化・伸長』、『活性・均衡』、『整理・統合』に分類して選択と集中を進めます。海外では中国拠点を充実させ、コア事業のグローバル展開を図ります。

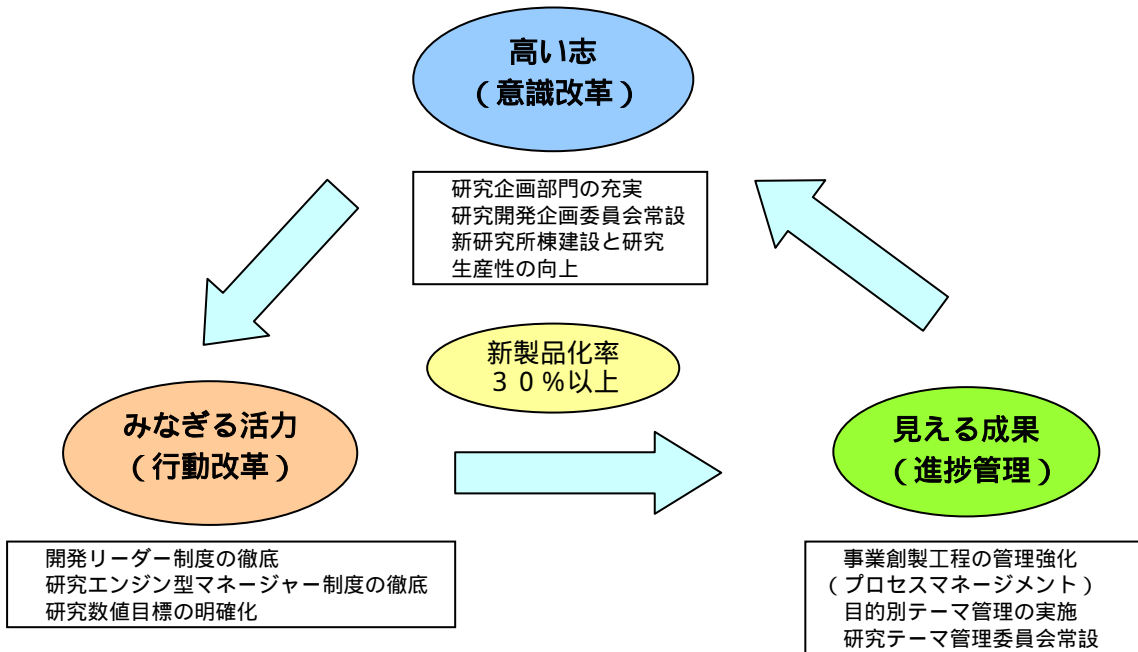
(3) 新規創製事業として、新たに着手する事業は、電子材料・情報関連、光通信、ナノテクノロジー関連、医薬中間体関連、資源エネルギー関連とします。推進のために新事業部と研究開発企画委員会を創設し、成果の早期実現に努めます。

・部門戦略

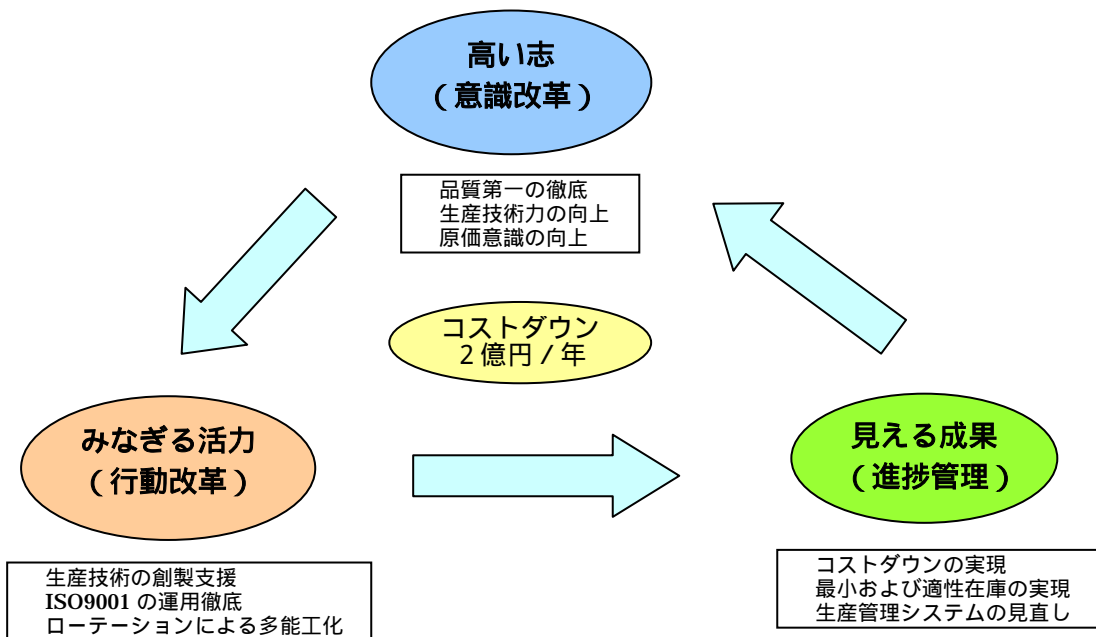
1. 『顧客満足』の実践力強化のための営業戦略



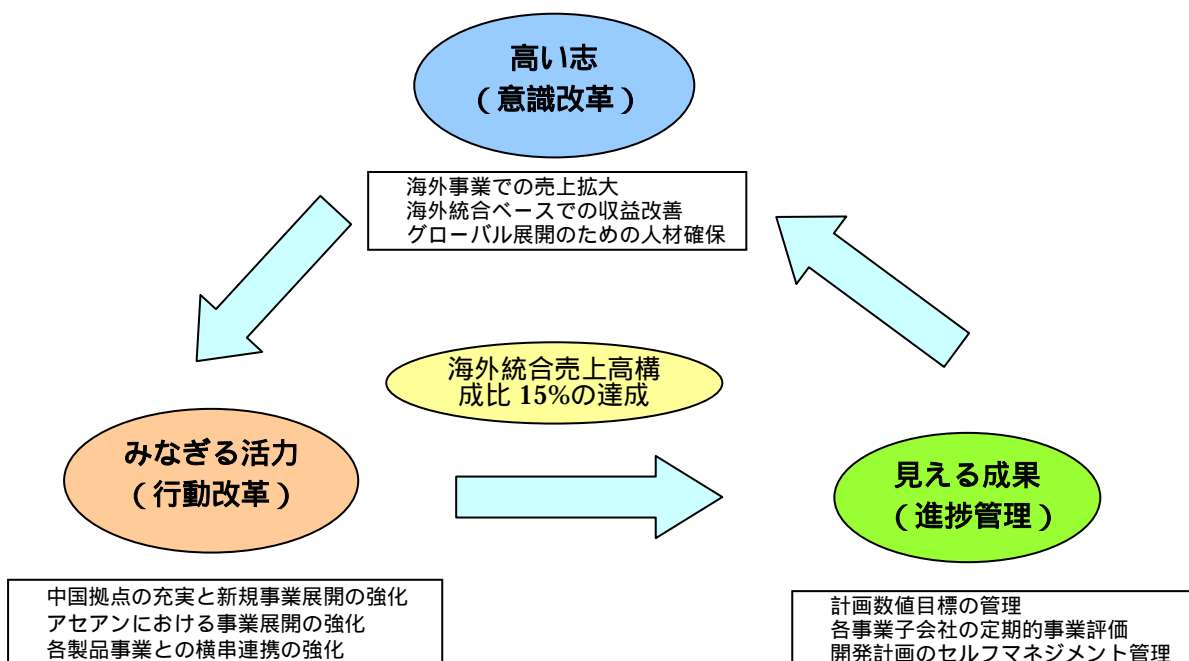
2. 『研究努力』、『研究エンジン思想』の実践力強化のための研究戦略



3. 『品質第一』、『原価逡減』の実践力強化のための生産・業務戦略



4. 『グローバル・グループ経営』の実践力強化のための海外戦略



以 上

免責・注意事項

本計画のいかなる情報も、第一工業製薬株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。また当社は本計画の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。

投資を行う際には、必ず当社が発行する有価証券報告書等の財務資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断でなされるようお願いいたします。万一、内容についての誤りまたはそのほかホームページに掲載された情報に基づいて損害を被られたとしても、当社および情報提供者は責任を負いかねます。

また、本計画に記載されている当社の現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、一般的経済状況、製品需給や市場価格の状況、市場での競争の状況、為替の変動等のさまざまな要因により、これら見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。

従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんので、ご承知おき下さい。